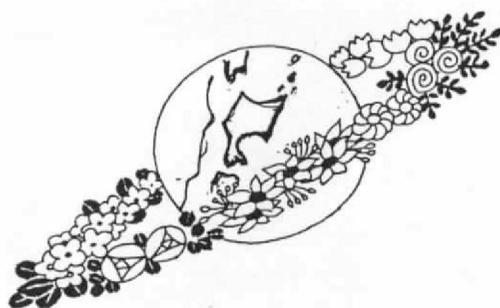


十五年のあゆみ



北海道難病連厚岸・浜中支部

15年の歩み

1977	4. 1	ペーチェットの患者会発足	
1979	1.12	厚岸・浜中難病友の会発足	会員14名
	6.24	レクリエーション開催	観管内より患者 150名参加
	10.22	通院交通費の助成きまる	厚岸町
1980	11. 1	第1回難病無料検診相談会	厚岸町 53名
1981	12. 5	国際障害者 難病と障害を考えるシンポジウム	
1982	8.18	難病連第10回総会出席	
	6.17	第2回難病無料検診相談会	浜中町 71名
	10.10	医療相談会	厚岸町 中井先生(札幌市)
1983	3. 5	支部役員研修会	阿寒町
	8. 7	全道集会	旭川市 5名参加
	8.23	釧路難病特診	4名受診
	9.18	難病集団無料検診(道)釧路市立病院	5名受診
	10. 1	難病連役員研修会	早来町 事務局長出席
	11.27	難病と障害を考える集い	厚岸町社会福祉センター
	12.24	全国集会・東京銀座デモ行進、国会講義	事務局長参加
1984	2.22	透析患者の通院タクシー代週3回助成	厚岸町
	3. 3	支部役員研修会	根室市
	4.21	難病連第12回総会	支部長、事務局長出席
	7. 8	第3回難病無料検診相談会	町立厚岸病院 70名
	7.29	全道集会	函館市青函連絡船上 10名参加
	10. 6	難病連役員研修会	古平市 事務局長出席
1985	1.27	肝炎学習会・新年交流	生活改善センター
		役員研修会	標茶町 3名参加
	4.17	難病連第13回総会	支部長・事務局長出席
	9. 1	肝癌検診	ウイルス肝炎友の会主催 釧路市癌検診センター 厚岸町より一人千円助成
1986	2.22	支部役員研修会	中標津 5名参加
	4.19	難病連第14回総会	支部長、事務局長出席
1986	7. 6	6支部道東支部協議会として発足	

	8. 2	全道集会 札幌市	小柳・堀井・田宮参加
	10.15	第4回無料検診相談会	浜中町 71名
1987	1.15	学習会(ウイルス肝炎)	釧路協立病院 田辺先生 25名
	2.28	道東支部協議会役員研修会	厚岸町
	4.18	難病連第15回総会	
	8. 9	全道集会 釧路市	厚岸町より患者輸送車運行
1988	3.12	道東支部協議会役員研修会	会計監査 阿寒町
	4.16	難病連第16回総会	支部長、評議員出席
	6.19	第5回無料検診相談会	町立厚岸病院 61名
		全道集会 札幌市	堀井・田宮参加
	9.10	難病連役員研修会	札幌市 堀井・早川・波佐谷
1989	3.18	道東支部協議会役員研修会	会計監査 標茶町
		難病連第17回総会	
	8. 6	全道集会 音更町	14名参加
	11. 5	第6回無料検診相談会	浜中町老人福祉センター 36名
1990	1.28	道東支部協議会役員研修会	標茶町
	5.25	大阪難病連来訪	浜中観光ホテルで交流会
	7.28	全道集会 札幌市	
1991	1.26	道東支部協議会役員研修会	中標津町
	2.24	支部長小柳悦子札幌市へ転勤	送別会
	” ”	後任支部長に田宮滋子、事務局長に山田澄子	
	3.10	医療講演会	釧路協立病院 吉岡先生 厚岸町と共催
	7.28	全道集会 洞爺湖	10名参加
	10. 6	シンポジウム91	難病患者と障害者・高齢者の福祉と医療を考える
1992	1.26	道東支部協議会役員研修会	厚岸町
	4.18	難病連第19回総会	支部長、評議員出席
	8. 2	全道集会 札幌市	3名参加
	9.22	支部研修一泊旅行	網走市 13名参加
	10.18	JPC国会請願署名	すこやか健康福祉運動会 会場で活動
	11.18	15周年記念行事	

『今日一日太陽の下で 遊びませんか』

これをキャッチフレーズに、1979年（昭和54年）6月24日、
釧根地区難病患者を集めて、レクリエーションを行いました。

釧 路 新 聞



白浜海岸でのレクリエーション、暖かい砂の感触を楽しむ

当日は子の日公園に大型バス4台、マイクロバス6台で集合、開会式を終わり、アヤメが原へ…アヤメの花には少し早かったが海霧もなく暖かくて、寝たまま運ばれた患者も満足気でした。

昼食は生活改善センターに総勢300人が集まってにぎやかに済ませて、午後は白浜海岸で、波と砂に触れました。

患者150人、ボランティア150、ボランティアは厚岸、浜中の地区芳、民生委員、潮見、水産の両高校、その他でした。

町立病院からは、麻生先生と7名の看護婦さんが、医療班として、患者と行動を共にしてくださった。

参加した患者たちに大変喜ばれました。そのかけにはボランティアと医療班の協力があったから、と、感謝しています。

厚岸・浜中地区難病友の会会長 小柳悦子記

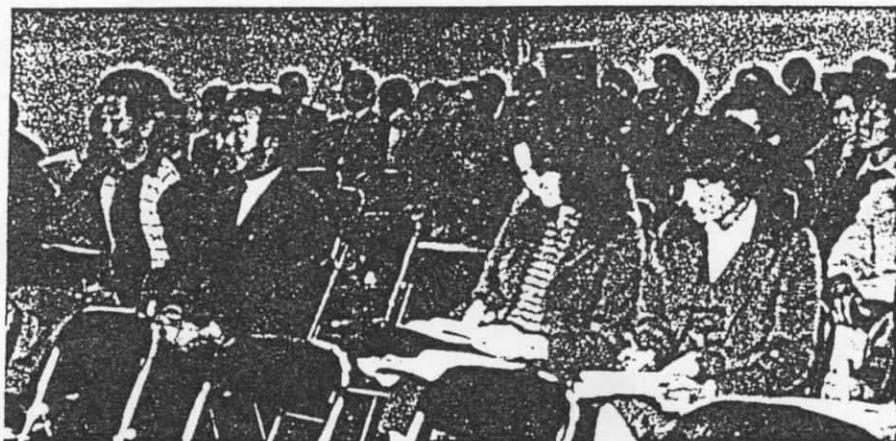
国際障害者年、難病と障害を 考えるシンポジウム

—難病患者と障害者の現状と課題—

1981年12月9日



講演者、五十嵐正紘先生、大橋 晃先生



札幌・阿寒・釧路・標茶・中標津・浜中・厚岸等各地から

小さい町の大きなとりくみ、でした。厚岸町、浜中町、釧路保健所と
医師の先生たちの、全面的なご協力をいただいて、100人近い参加で
成功しました。札幌から駆けつけてくださった先生、看護婦さん、各地
の患者会の仲間たち等々、私達には忘れられない1ページとなりました

難病と障害を考える集い

— 1983年11月27日 —



大橋院長の話に熱心に耳を傾ける参加者たち

本当の福祉社会を

難病と障害を考えるつどい 厚岸

【厚岸】北海道難病連厚岸・浜中支部（小柳悦子支部長）主催の難病と障害を考えるつどいが二十七日、町社会福祉センターで開かれた。

社会への完全参加と平等の願いを込めたつどいには同支部会員ら約五十人が参加。まず大橋晃・道勤医師中央病院院長が「難病の発見・治療」と題して、また伊藤たてお・道難病連代表理事が「患者会のあゆみと現状」のテーマで講演した。

大橋同病院院長はその中で難病専門医の養成や専門機関の充実、医療と福祉との一層の連携を強調するとともに、厚生省が来年度予算の概算要求に当たって、健保、共済など被用者保険本人の二割自己負担や入院時食事代（一日六百円）の徴

収、ヒタミン剤や風邪薬などの保健用除外などを盛り込んだ改定案を明らかにした背景や実態などについて述べ、医療後退・に対する強い関心を促した。また、伊藤同代表理事は患者会の役割として①病気を正しく知ること②病気にまけないようにすること③本当の福祉社会を作ること④本当の福祉社会を作ること⑤本当の福祉社会を作ること⑥本当の福祉社会を作ること⑦本当の福祉社会を作ること⑧本当の福祉社会を作ること⑨本当の福祉社会を作ること⑩本当の福祉社会を作ること⑪本当の福祉社会を作ること⑫本当の福祉社会を作ること⑬本当の福祉社会を作ること⑭本当の福祉社会を作ること⑮本当の福祉社会を作ること⑯本当の福祉社会を作ること⑰本当の福祉社会を作ること⑱本当の福祉社会を作ること⑲本当の福祉社会を作ること⑳本当の福祉社会を作ること㉑本当の福祉社会を作ること㉒本当の福祉社会を作ること㉓本当の福祉社会を作ること㉔本当の福祉社会を作ること㉕本当の福祉社会を作ること㉖本当の福祉社会を作ること㉗本当の福祉社会を作ること㉘本当の福祉社会を作ること㉙本当の福祉社会を作ること㉚本当の福祉社会を作ること㉛本当の福祉社会を作ること㉜本当の福祉社会を作ること㉝本当の福祉社会を作ること㉞本当の福祉社会を作ること㉟本当の福祉社会を作ること㊱本当の福祉社会を作ること㊲本当の福祉社会を作ること㊳本当の福祉社会を作ること㊴本当の福祉社会を作ること㊵本当の福祉社会を作ること㊶本当の福祉社会を作ること㊷本当の福祉社会を作ること㊸本当の福祉社会を作ること㊹本当の福祉社会を作ること㊺本当の福祉社会を作ること

町内外から58人が集まり、国際障害者年の行動計画2年目、再び講演と分科会で、弱い立場の私達や、お年寄りにやさしい福祉社会とは、また難病の発見、治療などを学びかたりあいました。

「福祉の町」の出発点に

難病患者障害者と高齢者の医療と福祉を語りつどい

難病連厚岸・浜中支部



現場の抱える問題を話し合った医療と福祉を語りつどい

「語るつどい」で体験、意見 環境守るのが大事

高齢化へ地域の支えを

(道新 10.7)

【厚岸】北海道難病連厚岸・浜中支部（田宮滋子支部長）主催の「難病患者・障害者と高齢者の医療と福祉を語りつどい」が六日、厚岸町社会福祉センターで開かれた。

同支部は昭和五十六年に「国際障害者年、難病と障害を考える」シンポジウムを開いてから、ちょうど十年目の今年、高齢者の問題も含めて考える集いを開くことになった。この日の集いには障害者、お年寄り、支える家族ら約六十五人が参加した。

まず、町立厚岸病院の行木紘一院長が「難病患者・障害者と高齢者の医療と福祉」をテーマに記念講演のあと、行木院長が司会を務

性を訴え、週一回実施するためには専従の看護婦が少なくとも二人必要と指摘した。小野寺課長は難病の原因の一つと考えられている環境の悪化を食い止めるべきだと主張、手塚次長は高齢化社会に向け、地域で支えていくシステムを確立するよう呼び掛けた。

司会の行木院長はこうした集いをいろいろな団体で開催し、今後の在り方を考えていこうと訴え、最後に田宮支部長が「この集いがきっかけになり、福祉の町・厚岸になれば幸いです。そのためにも私たちも行政に手を貸していきたい」と語り、締めくくった。

難病連厚岸支部として力一杯で取り組んだ事業はこれまで4回でした。国際障害者年の行動計画が残り1年となったこのとき、私達達は今何をしてきたのか、私達の運動が本当に地域に根付いているのだろうか？そんな思いもあっての事業でした。

パネラーの話は、涙なくしては聞けなかった。との感想もありました。

高齢者、障害者、難病患者も安心して暮らせる町づくりのためには私達も頑張らなければなりません。

第一回難病無料検診の頃

1979年（昭和54年）たった14人の会員で、道東の地域をカバーしたレクリエーションを成功させたいきおいで、その翌年の1980年（昭和55年）難病で悩み、一人で泣く仲間をなくしたいと、北海道難病連による、難病無料検診相談会を開催することになりました。

支部長、事務局長、幹事とは名ばかりの数人での取り組みでした。雲を掴むような気持ちでしたが、厚岸町の全面的な支援をいただいて当日を迎えたのです。

会場は社会福祉センターでした。その頃の福祉センターは入口でスリッパに履き替えていましたから、スリッパの調達も大変だったと覚えています。

前日の雨を忘れたような晴天の朝、7時過ぎに会場へいくとすでに何人かの受診する人が待っていました。一人もきてくれなかったらどうしよう…。心配でしたがその日受診した人は53人、何人かの人が難病と判りました。

浜中町での難病検診・相談会

1982年（昭和57年）6月17日浜中町で難病検診・相談会をしました。2回目になっていましたので、受診者はきてくれると判りましたが、開催地が浜中町でした。公民館の手狭な会場でしたが、2階の待合室まで、身体の不自由な受診者を抱えていただくなど、浜中町の皆さんの献身的な力添えで71人の人が受診しました。

その日受診して仲間になってくれたAさんは、今支部の役員として頑張っています。

その後1989年（H1年）まで6回の難病検診・相談会を開催いたしました。

15年の歩み、それは私達だけで歩んだものではありません。厚岸町、浜中町のご指導とご協力、地域の皆さんの暖かいご支援があって歩んでくることが出たのです。

心からの感謝をこめて…